

## 海外邦人安全対策情報（2021年1月－3月）

（在ニュージーランド大使館管轄地域）

### 1 ニュージーランド（NZ）国内全体の治安情勢

#### （1）テロ関係

2019年3月15日、クライストチャーチに所在する2か所のモスクで銃の乱射事件が発生し、51人が死亡、数十人が負傷しました。実行犯として逮捕されたオーストラリア国籍の男は、白人至上主義を主張する過激思想の持ち主で、逮捕時に軍用半自動小銃等を所持していました。事件後、NZ政府は銃規制を強化するなどテロ防止に向けた対策を推進していますが、国内には依然として多くの猟銃等が流通しており、引き続き、テロに対する警戒が必要です。

#### （2）一般治安関係

NZでは、強盗や侵入窃盗、車上狙いや繁華街での暴行事件が、日本と比べると多く発生しているため、防犯対策には十分な注意が必要です。また、犯罪組織（いわゆるギャング）の抗争もしばしば勃発しており、これらに巻き込まれることのないよう、繁華街等では特に注意してください。このほか、NZ国内ではメタンフェタミン等の薬物犯罪が社会問題化していますので、留意してください。

### 2 犯罪の傾向

#### （1）犯罪の発生状況

2020年中のNZ国内における人口1万人当たりの強盗事件（Aggravated Robbery）の発生率は、日本と比べ数十倍に上ることから、十分な注意が必要です。最近は、若者によるタバコ等を狙った強盗事件も多発しています。特に夜間や早朝、人気の少ないコンビニエンスストアやガソリンスタンドを利用する際には、事件に巻き込まれないよう周囲の状況に注意してください。

#### （2）注意すべき犯罪と対策

何事においても、被害に遭わないためには、警戒心を持ち、周囲の変化に気を配ることが大切です。日常生活において、心配のあまり過剰に反応し過ぎる必要はありませんが、いざというときのため、普段の生活の中で様々なケースを想定しておく、実際の事件に遭遇したときにもパニックに陥らずに対処できる可能性が高まります。

##### ア 窃盗・強盗

特に侵入窃盗（空き巣など）や車上狙い、置引きに注意してください。必要に応じて、自宅に防犯用のセンサーやカメラを設置したり、貴重品やバッグを車内に放置しないようにするなど、日頃から自身の防犯意識を高めてください。また、貴重品のシリアル番号等を控えておくなど、被害に遭った際の対策もご検討ください。

また、夜間はもちろん、昼間や夕暮れでも、人通りの少ない場所での独り歩きは避けましょう。自分の身は自分で守るという意識を持って行動することが大切です。

##### イ 暴行・傷害

NZ人は温厚な性格と言われますが、繁華街では飲酒がらみの暴行・傷害事件も発生しています。泥酔して気が荒くなっている人を見かけたときには、相手をジロジロと見ないよう気を付けながらも、その人に不意を突かれないように留意してください。

##### ウ 薬物犯罪

NZでも覚醒剤（メタンフェタミン等）の乱用が社会問題となっています。繁華街の路上や深夜のバー、ナイトクラブ等で知らない人に声を掛けられても、絶対に薬物に手を出さないでください。犯罪組織などの収入源にもなっているため、NZ警察は薬物犯罪を厳しく取り締まっています。

### **(3) 在ニュージーランド大使館管轄地域における最近の犯罪**

ア 1月3日午後11時頃、ウェリントン郊外カロリで、マスクを着用した3人の男が住宅に押し入り、家人を傘で殴打したり、首を絞めるなどした上、現金や宝石、車を奪って逃走した。

イ 1月9日午後6時10分頃、ウェリントンのノースランドにあるステリン・メモリアル・パークで、男女が車に乗っていたところ、ギャングのベストを着用した複数の男が近付き、バッグを渡すよう要求してきた。被害者はマチューテ（なた）を所持した犯人に殴られるなどして足に重傷を負った。後日、17歳と20歳の男が逮捕された。

ウ 2月2日午後3時40分頃、ウェリントンのソーンドンで、男性が車に乗っていたところ、見知らぬ男3人が近付き刃物を突き付けるなどした。被害者は近くのスーパーの駐車場に逃げ込み、怪我はなかった。翌日、20歳の男が逮捕された。

### **(4) 邦人が巻き込まれた事件・事故**

大きな事件・事故はありません。

## **3 テロ・爆弾事件発生状況**

冒頭「1（1）テロ関係」のとおり。

## **4 日本企業の安全に関する諸問題**

特に認知されていません。